駿河Ｂ遺跡

福岡県春日市春日原南町所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書　第69集

2013

春日市教育委員会

序

春日市は玄界灘に面した福岡平野の南奥に位置する都市で、住環境に優れていることから昭和40年代以降、福岡都市圏のベッドタウンとして目ざましい発展をしてきました。市内には多くの遺跡が存在し、都市化の進展にともなって重要な遺跡が次々に発掘調査され、たびたび全国的にも脚光を浴びてまいりました。

とりわけ、本市の中央部に南北方向にのびる春日丘陵とその周辺の一帯には、多くの遺跡が確認されています。特に、須玖岡本遺跡を中核として、春日丘陵に濃密な分布を示す弥生時代の一大遺跡群は、須玖遺跡群と呼ばれ、王墓の存在や大規模な青銅器工房などその傑出した内容から、奴国の王都ともされています。

ここに報告いたします駿河B遺跡が所在する春日原周辺は、須玖遺跡群からはやや離れた位置にあり、市内でも早くから都市化が進んでいたことから、埋蔵文化財の状況については、不明な部分が多い地域でした。しかし近年、春日市庁舎の建設に伴う駿河A遺跡の発掘調査を契機とするように、駿河C、駿河D、原ノ口遺跡など次々と新たな遺跡が発見されており、これからの調査の動向が注目されるところです。

貴重な遺跡の発掘調査報告としましては、本書の不十分さは免れませんが、研究資料として末永く活用され、また、一般の方々にも広く利用していただければ幸いです。

なお、最後になりましたが発掘調査に際しまして、御協力・御指導を賜りました方々に心から感謝の意を表します。

平成25年3月31日

春日市教育委員会
教育長　山　本　直　俊

例　言

1　本書は、共同住宅建築に伴い 1990 年 5 月 14 日から 5 月 25 日にかけて、春日市教育委員会が実施した駿河 B 遺跡の緊急発掘調査の報告書である。

2　遺構の実測は、吉田佳広が行い、製図は伊東ひかりが行った。

3　遺物の実測図作成は、久家春美、久家ゆみ、桑野暢子が行い、製図は島津屋幸子、柳智子が行った。

4　掲載写真のうち遺構については吉田、空中写真企画が撮影し、遺物については岡紀久夫（文化財写真工房）が行った。

5　本書に使用した 2 万 5 千分の 1 地形図は、国土地理院発行の『福岡南部』である。

6　本書の遺構実測図に用いた方位は磁北である。

7　本書の執筆・編集は吉田が行った。

本　文　目　次

Ⅰ　はじめに …… 1
1　調査に至る経過 …… 1
2　調査の組織 …… 1

Ⅱ　位置と環境 …… 2

Ⅲ　調査の内容 …… 6
1　調査の概要 …… 6
2　遺構 …… 6
（1）溝 …… 6
（2）土坑 …… 10
（3）掘立柱建物跡 …… 10
3　遺物 …… 11
（1）弥生土器 …… 11
（2）須恵器 …… 12

Ⅳ　まとめ …… 12

図　版　目　次

図　版　1（1）調査区全景
（2）溝検出状況（北から）
図　版　2（1）溝Ｂ－Ｂ´ ベルト断面土層（北から）
（2）溝Ｃ－Ｃ´ ベルト断面土層（北から）
（3）溝須恵器検出状態（北から）
図　版　3（1）１号土坑（南東から）
（2）２号土坑（北西から）
（3）掘立柱建物跡
図　版　4　　駿河Ｂ遺跡出土土器

挿 図 目 次

第 1 図　駿河Ｂ遺跡周辺遺跡分布図…… 3
第 2 図　駿河Ｂ遺跡位置図…… 4
第 3 図　遺構配置図…… 7
第 4 図　断面土層図…… 8
第 5 図　１・２号土坑実測図…… 9
第 6 図　掘立柱建物跡実測図……10
第 7 図　弥生土器実測図……11
第 8 図　須恵器実測図……12

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経過

駿河Ｂ遺跡は共同住宅建設に伴い、事前に発掘調査を実施したものである。平成２年３月９日、地権者より春日原南町４丁目 37 番 96 の宅地に対する開発申請があり、埋蔵文化財の状況を確認するために同年４月 23 日に試掘調査を実施した。それまで当地は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていなかったが、前年に当地の西方約 200 ｍの春日市役所建設に際し、弥生時代中期から後期にかけての集落である駿河Ａ遺跡を調査しており、周辺の状況が注目されていた。試掘調査の結果、開発対象地には地表面から 40 ～ 50 ㎝の位置に溝や土坑、柱穴などの遺構を確認した。

このため地権者と春日市教育委員会で埋蔵文化財保護に関する協議を行い、共同住宅建設予定地 220 ㎡の内、遺構が認められた 85 ㎡の範囲の発掘調査を実施することとなった。地権者と春日市との間に発掘調査に関する受託契約を締結し、発掘調査は開発事業者の費用負担において、市教委は平成２年５月 14 日から５月 25 日にかけて発掘調査を実施し、遺構の記録保存および遺物の回収を行った。

2　調査の組織

発掘作業および整理作業における調査体制は下記のとおりである。

発掘調査（平成２年度）

教育長	三原英雄
教育部長	西田　譲
社会教育課長	矢野文一
文化財係長	鬼倉芳丸
庶務担当　主事	坂本智明
文化財担当技師	丸山康晴
同	平田定幸
同	中村昇平
同	吉田佳広
嘱託	池田洋子

報告書作製（平成 24 年度）

教育長	山本直俊
社会教育部長	永田辰男
文化財課長	廣瀬貴之
管理担当兼文化財係長	中村昇平
管理担当　主任	山田ひとみ
主事	佐伯廣宣
文化財担当主査	吉田佳広
同	森井千賀子
主任	井上義也
嘱託	島津屋幸子
同	柳　智子
同	上原あい
同	森田利枝(~9月)

Ⅱ　位置と環境

駿河Ｂ遺跡は、福岡県春日市春日原南町４丁目37－96の共同住宅建設に伴う発掘調査によって確認された遺跡である。

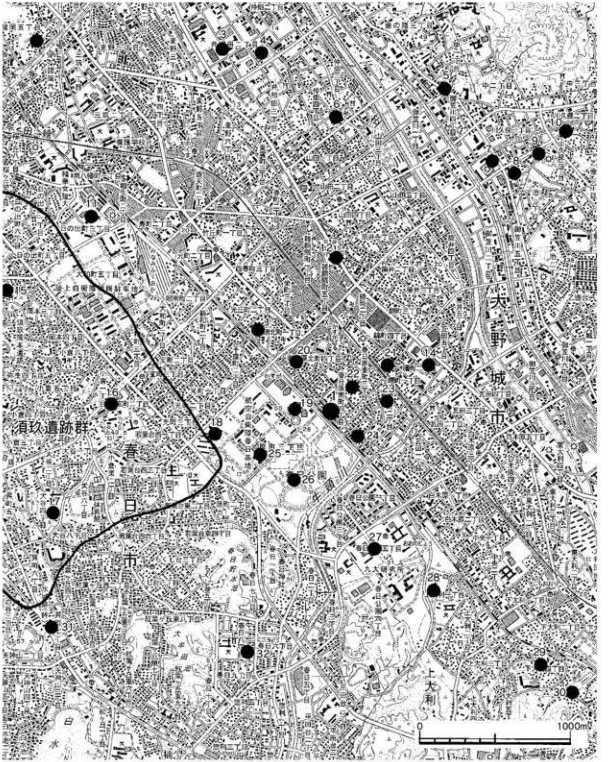
古来、大陸交流の玄関口として発展した福岡平野は、天然の良港である博多湾に面し、那珂川と御笠川が北流する沖積平野である。この両川の周辺の丘陵部や台地には多くの遺跡が確認される。特に弥生時代の遺跡には、板付遺跡、比恵遺跡群、那珂遺跡群、須玖遺跡群など大規模な遺跡が存在しており、中国の史書に記された奴国の故地に比定されている。

春日市はこの平野の南部に位置する面積14.15k㎡の都市である。市域のほぼ中央には、南方の脊振山系から派生した春日丘陵が伸び出し、その北部を中心に数多くの遺跡が連続して確認されている。特に弥生時代の遺跡が集中する様は顕著で、その範囲は南北２km、東西１kmにおよぶことが、発掘調査や試掘調査などの成果から明らかになっている。この大遺跡群が須玖遺跡群と呼称される、奴国の中心遺跡であることは、他を絶する遺構・遺物の内容から間違いないところであろう。

また、須玖遺跡群の東西の台地上にも、空閑地を挟んでまとまった遺跡が確認されている。このように春日市では、北部を中心に多くの遺跡が確認されており、その総数は約150にもおよぶ。遺跡の時期は弥生時代が主体をなすが、旧石器時代から近世までの遺物、遺構も確認されている。

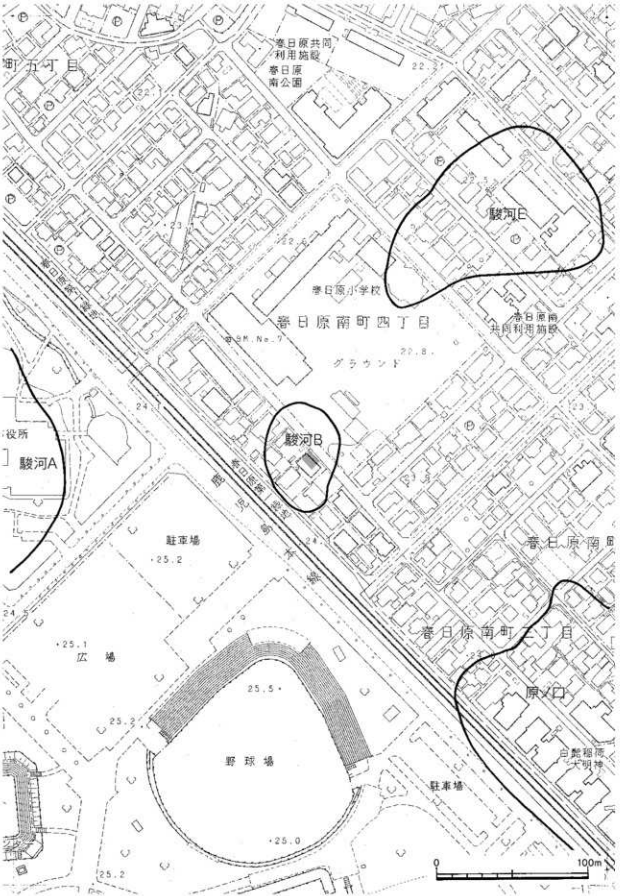
これまでの調査により、駿河Ｂ遺跡の周辺では縄文時代から中世までの遺構・遺物が確認されているが、今回の調査では弥生時代及び奈良時代の遺構が確認されていることから、当該期の周辺遺跡について概観する。

駿河Ｂ遺跡は、春日丘陵の南東部に広がる平坦地にある。御笠川中流域にかけて広がるこの大きな平坦部は、ところどころ緩やかに高まる部分があり、当遺跡のほか駿河Ａ遺跡[註1]、駿河Ｃ遺跡[註2]、駿河Ｄ遺跡[註3・4]、駿河Ｅ遺跡[註3]、原ノ口遺跡[註5]、大野城市域には瑞穂遺跡、石勺遺跡[註6]などが存在する。これらの遺跡からは、しばしば縄文早期の押型文土器が出土しているが、基本的にはいずれも弥生時代以降の遺跡と言える。弥生時代前期は御笠川左岸の川原遺跡[註7]、仲島遺跡[註8]、石勺遺跡などに集落が現れ、須玖遺跡群内においては伯玄社遺跡[註9]に大規模な墓地が営まれる。中期には駿河Ａ遺跡、九州大学・御供田遺跡[註10]などで新たに集落が営まれ、墓地としては立石遺跡[註11]、石勺遺跡、瑞穂遺跡、御笠川右岸に森園遺跡[註12]、中・寺尾遺跡[註13]で甕棺墓群が確認されている。須玖遺跡群では顕著な遺跡の拡大が進み、集落・墓地ともに中・後期を通して周辺地域を圧倒する存在となる。後期になると駿河Ａ遺跡の集落は規模を増し、大野城市の仲島遺跡、石勺遺跡、森園遺跡、中・寺尾遺跡などでも集落の展開が認められる。古墳時代の春日市南東部に顕著な集落遺跡は認められないが、駿河Ｃ遺跡において古墳時代から中世にかけての溝が多数検出されている。仲島遺跡、石勺遺跡などの集落が引き続き営まれるほか、瑞穂遺跡に新たな集落が展開する。古代においては、春日公園内遺跡[註14]、先ノ原遺跡[註15]で、大宰府の水城西門から鴻臚館へと通じる奈良時代の官道が確認された。この他、官道（西門ルート）関連の遺跡とし



1	駿河Ｂ遺跡	2	笠原遺跡	3	井相田Ｃ遺跡	4	仲島遺跡	5	塚口遺跡
6	川原遺跡	7	ヒケシマ遺跡	8	中・寺尾遺跡	9	森園遺跡	10	松葉園遺跡
11	下大荒遺跡	12	雑餉隈遺跡	13	中ノ原遺跡	14	石勺遺跡	15	須玖岡本遺跡
16	伯玄社遺跡	17	大谷遺跡	18	立石遺跡	19	駿河Ａ遺跡	20	駿河Ｄ遺跡
21	駿河Ｃ遺跡	22	駿河Ｅ遺跡	23	瑞穂遺跡	24	原ノ口遺跡	25	先ノ原遺跡
26	春日公園内遺跡	27	九州大学・御供田遺跡	28	池田遺跡	29	谷川遺跡	30	水城跡（西門）
31	大土居水城跡	32	惣利西遺跡						

第１図　駿河Ｂ遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図　駿河B遺跡位置図 (1/2,500)

て九州大学・御供田遺跡、大野城市の池田遺跡、谷川遺跡[註16]などが調査されている。また、駿河B遺跡に近接する駿河E遺跡で検出された奈良時代の溝や、原ノ口遺跡において確認された飛鳥～奈良時代にかけての集落及び多数の溝は、春日市南東部の古代の状況を考察する上で注目される。

参考文献

註1　福岡県教育委員会『駿河遺跡』福岡県文化財調査報告書第98集　1992

註2　春日市教育委員会『春日市埋蔵文化財年報4』1997

註3　春日市教育委員会『春日市埋蔵文化財年報6』1999

註4　春日市教育委員会『春日市埋蔵文化財年報14』2007

註5　春日市教育委員会『原ノ口遺跡』春日市文化財調査報告書第33集　2002

註6　大野城市教育委員会『石勺遺跡Ⅴ』大野城市文化財調査報告書第97集　2011

註7　大野城市教育委員会『川原遺跡Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第96集　2011

註8　大野城市教育委員会『仲島遺跡Ⅶ』大野城市文化財調査報告書第71集　2006

註9　春日市教育委員会『伯玄社遺跡』春日市文化財調査報告書第35集　2003

註10　九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室『九州大学埋蔵文化財調査報告―九州大学筑紫地区遺跡群―』第一冊　1992

註11　春日市教育委員会『立石遺跡』春日市文化財調査報告書第34集　2002

註12　大野城市教育委員会『森岡遺跡Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第55集　1999

註13　大野城市教育委員会『中・寺尾遺跡Ⅲ』大野城市文化財調査報告書第54集　1999

註14　春日市市史編纂委員会『春日市史』上　1995

註15　春日市教育委員会『先ノ原遺跡』春日市文化財調査報告書第63集　2012

註16　大野城市教育委員会『谷川・池田・池ノ上遺跡』大野城市文化財調査報告書第51集　1998

Ⅲ　調査の内容

1　調査の概要

春日市の中央には、南方の脊振山塊の北東部からのびた春日丘陵が南北方向に突出している。春日丘陵には、小さな谷が入り込んでおり樹枝状の形態をなすが、その北部や周辺には多くの遺跡が途切れることなく確認されている。この遺跡群は弥生時代を主体とするもので、範囲は南北２km、東西１kmに及び、須玖遺跡群と呼称している。このほかにも春日丘陵周辺では多くの遺跡が存在することが知られ、春日丘陵東側の低地では、県営春日公園の造成時に発見された奈良時代の官道跡や、春日市庁舎及び福岡県総合福祉・女性センター建設時に調査された駿河Ａ遺跡など注目される遺跡が存在している。

当調査地は春日原小学校とＪＲ鹿児島本線との中間地点に確認された遺跡で、共同住宅建設に際する事前調査の結果、現地表から 80 ㎝（標高 22.6 m）前後で茶褐色砂質土層に達し、その面に遺構を確認することができたが、遺構は奈良時代の溝が主体で、前述した弥生時代の集落遺跡である駿河Ａ遺跡と性格を異にすることから、「駿河Ｂ遺跡」として登録した。

発掘調査では、宅地造成時の客土とその下に堆積する黒色土などを約 90cm 除去すると遺構面に達した。遺構検出面は北側に向って僅かに低くなっている。

2　遺構

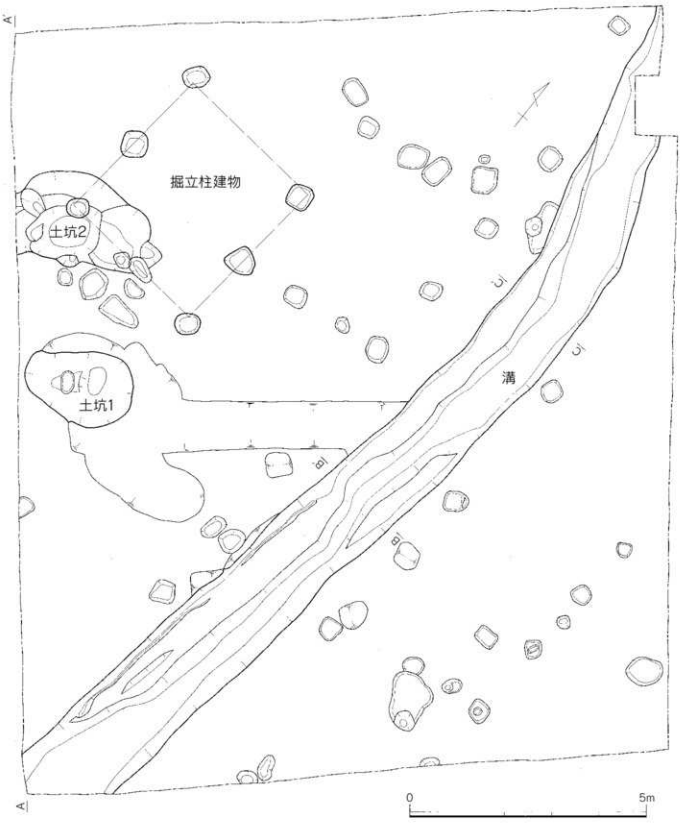
検出した遺構は、溝と土坑、掘立柱建物跡、ピットである。出土遺物はごく少量で、土師器、須恵器、弥生土器の破片が僅かに認められただけである。

調査では掘立柱建物跡が２号土坑を切って重複する状況が確認された。

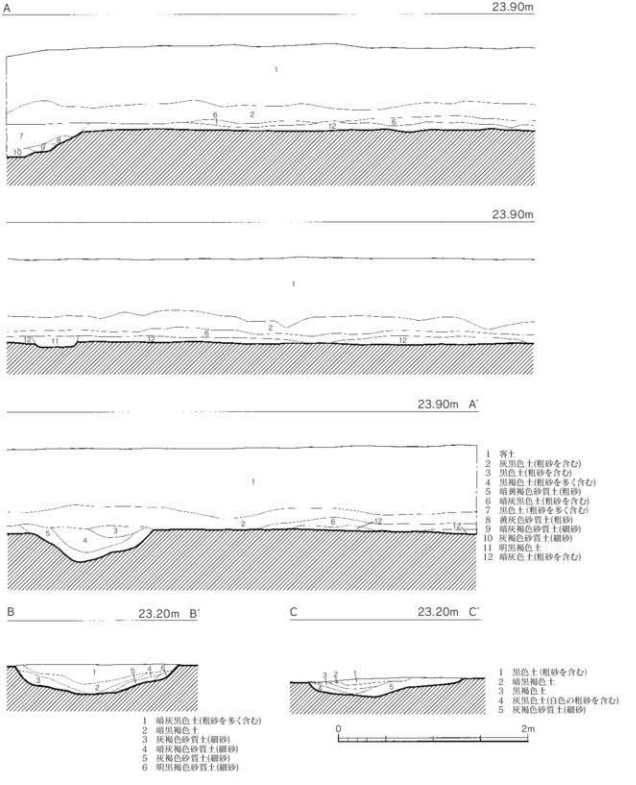
（1）溝（図版１－(2)・図版２、第３図）

調査区を対角に北隅から南隅にかけて走る溝で、長さ約 21 mを検出した。北部が少し西側に湾曲し、溝底は北側に僅かながら低く傾斜している。幅 1.6 ～ 1.8 mを測り、溝の深さは 20 ～ 40 ㎝である。両側に段が付いているが、これが溝の掘り直しによるものかどうか、覆土の状況からは判断出来なかった。

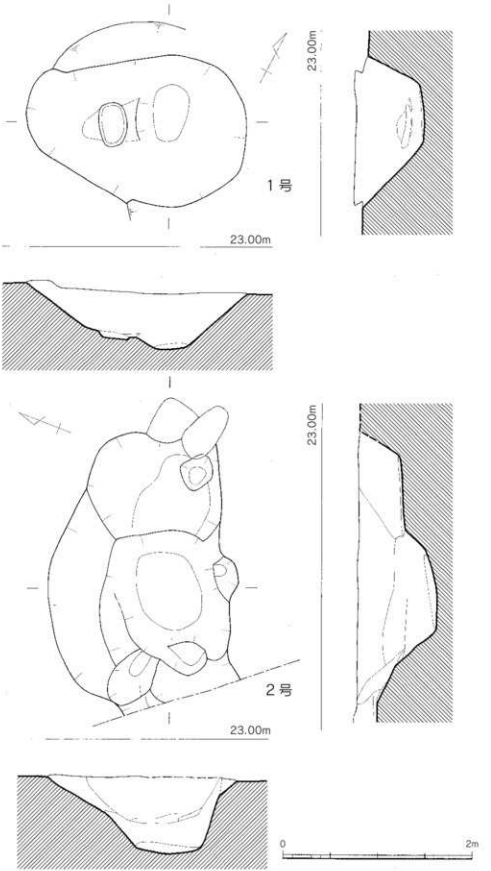
出土遺物は、須恵器、弥生土器片がある。



第３図　遺構配置図 (1/80)



第4図　断面土層図 (1/40)



第5図　1・2号土坑実測図 (1/40)

（2）土坑

土坑は、調査区南西辺の中央付近に２基を検出した。出土遺物は存在せず、用途は不明である。

１号土坑（図版３－（1）、第５図）

２号土坑の南東側に位置し、覆土は粗砂を多く含む黒色土で、自然に埋没したものと見られる。平面形は卵円形を呈し、規模は 1.6×2.3 m。底面は小さく、最深部の深さは約 70cm。南西部に段があるが、ここに重複するピットは、１号土坑より新しい可能性が高い。

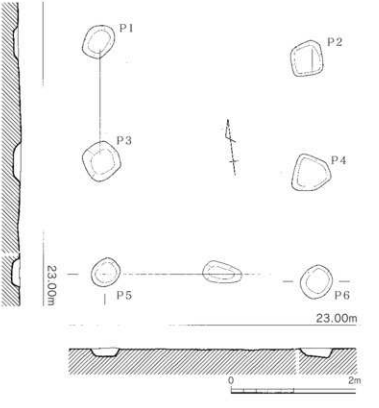
２号土坑（図版３－（2）、第５図）

１号土坑の北西側に位置し、掘立柱建物の柱穴に切られる形で重複している。南西部は調査区外に出ている。平面形は、３m以上 × ２mの不整形な楕円を呈し、複数のピットが重複するような形態である。最深部の深さは約 80cm。覆土の状況は１号土坑と大差ない。

（3）掘立柱建物跡（図版３－（3）、第６図）

調査区西部に検出した。西角の柱穴Ｐ５が２号土坑を切っている。２間 × １間の６本柱の建物で、梁行間 3.35 m、桁行間 3.6 m を測る。桁行方向はＮ2°Ｅである。柱穴の掘方は概ね径 50 ～ 60 ㎝の隅丸方形状を呈している。深さは約 10 ㎝前後と残存状態が悪く、遺跡を覆う灰黒色土層上から切り込んだ新しい遺構である可能性も否定できない。

図示し得る出土遺物はない。



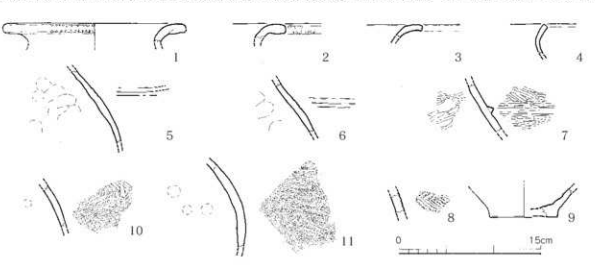
第６図　掘立柱建物跡実測図 (1/60)

3　遺物

当遺跡から出土した遺物は少量の土器のみである。全て溝出土か溝検出時に出土したもので小破片が多く、全形を知ることができるものは極めて少ない。

（1）弥生土器（図版4、第7図）

1～4は口縁部破片。1～3は壷形土器、4は甕形土器。1・2は大きく外反する口縁の端部がやや肥厚し、口唇部の両端にヘラによる刻目を入れる。口縁の内外は横ナデ調整。胎土には砂粒がやや多く含まれる。焼成は良好、色調は淡橙灰褐色を呈す。1は復元口径19.4㎝を測る。3は外反する口縁で、上面と内面との境に稜線が付く。磨滅して調整は不明瞭だが内面に横ナデが認められる。胎土に砂粒を僅かに含む。焼成はやや良好、色調は暗褐色を呈す。4は甕形土器で、先端が少し厚くなった「く」字状を呈す。焼成やや不良で、磨耗によって調整不明。色調は淡黄褐色、胎土に砂粒を少し含む。5～8・10・11は壷形土器の肩～胴部にかけての小破片。5・6はややふくらみを持ち3条の並行沈線が付される。磨耗のため不明瞭だが内外面ともナデ調整と見られる。内面に指押さえ痕をとどめる。胎土は石英・長石粒やや多く、雲母を少量含む。焼成やや良好。色調は淡灰褐色～灰褐色。7には三角突帯が付される。内外面ともヘラ研磨調整を施す。胎土は石英・長石粒やや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は淡橙褐色。10・11はふくらみのある胴部破片で、溝検出時に出土した。8・10には綾杉文が施される。11は肩部に沈線をめぐらせ、その下に連続する円弧上の文様がヘラ描きされている。9～11ともに器表が磨耗しているが外面ヘラ磨き調整の痕跡が認められ、内面はナデ調整、指押さえ痕が残る。胎土は石英・長石粒やや多く、雲母を少量含む。焼成良好。色調は8が暗橙褐色、10は暗褐色、11は淡灰褐色。9は底部資料。小片のため壷・鉢・甕形土器いずれか判

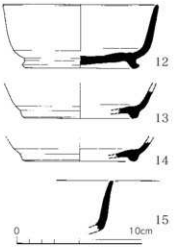


第7図　弥生土器実測図（1/4）

別が付かない。磨滅のため調整不明。焼成はやや良好で、胎土に砂粒をやや多く含む。色調は淡灰褐色を呈す。底径は 7.2 ㎝に復元される。

（２）須恵器（図版４、第８図）

12 ～ 15 はいずれも溝から出土した須恵器の杯身。12・13 は底面直上でまとまった状態で検出しており、これらの須恵器片が溝の埋没時期を示すものと考えられる。12 は口径復元 12.4 ㎝、高台径 9.3 ㎝、器高 5.1cm を測る。器壁は内外面ともに横ナデ調整を施すが、高台の内側は回転ヘラ切り後に粗いナデ。底部下位外面はヘラ削りで、内面は不定方向のナデ。胎土に細かい石英・長石・雲母等を少量含む。焼成はやや軟質で、色調は淡灰白色を呈する。13・14 は高台部の破片資料で高台径を約 9.0 ㎝に復元した。いずれも調整は横ナデを主体とし、底部内面に不定方向のナデを施す。15 は口縁部の小片で、内外面を横ナデ調整する。胎土・焼成・色調は 12 とほぼ同じ。



第８図　須恵器実測図 (1/3)

Ⅳ　まとめ

駿河Ｂ遺跡は、平成２年度の試掘調査によって発見された遺跡である。当遺跡は、春日市の南東部に広がる平坦地に立地し、遺跡発見の２年前に当遺跡の西方 200 mの位置に弥生時代中期から後期にかけての大集落である駿河Ａ遺跡が調査されている。また、さらに 100 m南西側に奈良時代の官道が伸びていることが知られており、関連遺構の検出が期待されていた。

今回の調査で検出した遺構は、溝、掘立柱建物、土坑、ピットである。溝は調査区の対角をほぼ南北方向に走っており、８世紀の須恵器・土師器片を包含する。削平されて依存状態は良くないが、幅 1.8m、深さ 35 ㎝を測り、本来は２m以上の溝幅であったものと思われる。先述したとおり当地から 300 m南方の春日公園内遺跡及び先ノ原遺跡からは官道が確認されており、その関連も考えられよう。しかし、当地の近接地点での試掘調査でも、この調査以降に確かな遺構は検出されておらず、本々、遺構の内容が薄い、範囲の狭小な遺跡であったものと見られる。溝の西側には掘立柱建物跡１棟、土坑２基を検出したが、遺物を全く含まず、時期不明とせざるを得ない。

遺物の中では弥生時代前期の土器片の存在が注意を惹かれるが、これまでのところ当地はもとより、近接地において弥生前期の顕著な遺跡は知られていない。駿河Ｂ遺跡に関しては今後の発掘調査、確認調査において究明すべき課題が多い。

図　　版

図版1

（1）調査区全景

（2）溝検出状況（北から）

図版2

（1）溝B－Bベルト断面土層（北から）

（2）溝C－Cベルト断面土層（北から）

（3）溝須恵器検出状態（北から）

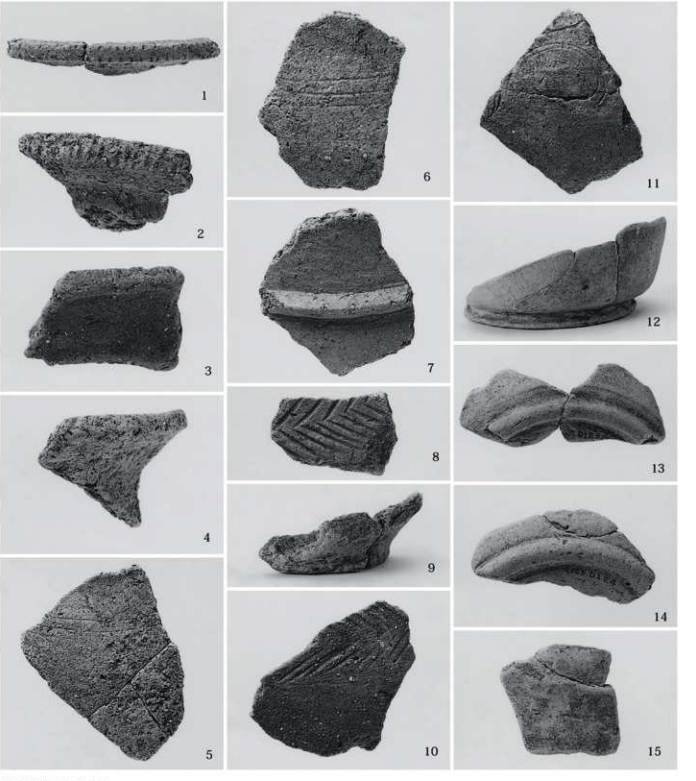
図版3

（1） 1号土坑（南東から）

（2） 2号土坑（北西から）

（3） 掘立柱建物跡

図版４



駿河Ｂ遺跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	するがびーいせき
書名	駿河Ｂ遺跡
副書名	福岡県春日市春日原南町四丁目所在遺跡の調査
巻次	
シリーズ名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第69集
編著者名	吉田佳広
編集機関	春日市教育委員会
所在地	〒816-0804　福岡県春日市原町３丁目１番地５　TEL　092-584-1111
発行年月日	西暦2013年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
するがびーいせき 駿河Ｂ遺跡	ふくおかけんかすがしかすがばるみなみまち 福岡県春日市春日原南町 ４ちょうめ37ばん96 ４丁目37番96	40218		33°31′57″	130°28′22″	1990.05.14 ～ 1990.05.25	85	共同住宅建設に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
駿河Ｂ遺跡	集落	奈良	溝　１条 土坑　２基 掘立柱建物　１棟	土師器・須恵器・弥生土器	

要約	駿河Ｂ遺跡は、御笠川中流域に広がる平野の微高地上に立地する。奈良時代に埋没したと見られる溝以外の遺構には、殆ど遺物が含まれておらず不明な点が多い。全体的に遺構密度は希薄だが、溝には弥生時代前期の土器片も含まれており、周辺地の状況には注意を要する。

駿河 B 遺跡

春日市文化財調査報告書　第 69 集

平成 25 年 3 月 31 日

発　行　　春日市教育委員会
福岡県春日市原町 3 丁目 1 番地 5

印　刷　　株式会社　三光
福岡県福岡市博多区山王 1 丁目 14-4